

令和5年度 学校関係者評価書 (川南町立山本小学校)

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価 項目 総合	結果の考察・分析および改善策等	関係者評価 項目 総合	学校関係者評価委員の意見	
					学校関係者評価委員の意見	
I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進						
1	家庭教育の充実に努める。 ・家庭教育の支援 ・個人面談等を生かした子育て不安等の解消	3.5	○必要に応じて保護者を対象とした教育相談を実施するなど家庭教育の支援に努めてきた。 ○家庭教育学級において、保護者の要望を生かした内容を取り入れ、会の充実を図った。	3.6	3.6	○教育相談の充実を図っていくことは、一人一人の児童を大切にすることにつながる。今後も大いに継続してほしい。 ○保護者の要望を受けた県メディア安全指導員を招いての講座など、家庭教育学級の内容が充実している。
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。 ・地域的人的、物的資源の積極的な活用 ・家庭と連携した健康教育、食育の充実 ・学校運営協議会委員を生かしたPTA活動の活性化	3.5	○米作りや収穫りや運動会、など多くの教育活動で地域や保護者の協力を得ることにより、取組を充実させることができた。 ○学校運営協議会において、①挨拶②読書活動推進③家庭の教育力向上④郷土愛の育成を目標に掲げ、その実現に向けて取り組んできた。 ○町教委と共に報告・連絡・相談する中で、指導・助言を受けながら、本校教育の充実に努めてきた。	3.6		○地域人材を効果的に教育に活用している。また、地域や保護者の方々の協力もありがたい。 ○地域人材の派遣要請の際には、町地域学校協働推進員に相談するなどして、さらに地域人材の発掘に努めていただきたい。 ○地域おこし協力隊の方々の活用なども効果的である。次年度以降、活用を検討していただきたい。 ○学校運営協議会における4つの目標が明確でよかった。
II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進						
1	読書活動を推進する。 ・学校図書館活用の充実 ・町立図書館との連携 ・読み聞かせ、ファミリー読書の推進 ・各種作文応募、新聞等への投稿促進	3.8	○学校図書館の充実及びその積極的な利用についての呼びかけ、花咲き会の方々の読み聞かせ等より、読書量が大きく伸びた。 ○学習で活用する本を届けていただきなど、町立図書館との連携が読書活動の推進につながった。 ○宮日新聞への投稿や地域広報誌における掲載などを通して、書く活動への意欲が高まった。	4.0	3.5	○地域の読書ボランティアの活用、図書支援員の取組の工夫、図書館との連携等が充実しており、子ども達の読書意欲の喚起が図られている。 ○宮日新聞や地域広報誌への作文の投稿及び掲載等は、保護者や地域の方が楽しみにしている。また、児童の書く意欲につながるので、ぜひ続けていただきたい。
2	確かな学力を育む教育を推進する。 ・「分かった、できた」と児童が自信をもって言える授業改善及び家庭学習の充実 ・望ましい学習習慣と読解力の育成(主題研) ・情報モラルを身につけ、ICTを活用できる児童の育成	3.0	○少人数の特性を生かし、個別最適な学びを保証する授業づくりを追求し、全職員でその実践に取り組んだ。 ○読解力を高める授業研究を年間を通じて実施し、研修を重ねながら、実践的な研究を行ってきた。 ○ICT支援員の活用により、教師の指導力向上や児童のスキル向上が図られた。	3.5		○人数が少ないことをメリットに変えて学力向上を図るうとする取組は大変評価できる。 ○教師が同じ方向性に向かって授業力の向上を図り、児童の学力を伸ばそうとする取組はとても有効であると感じる。
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ・「山本小当たり前のこと3か条」の指導及び教育活動全般を通じて、自己肯定感の育成 ・いじめの未然防止及び自他の生命を大切にする道徳教育及び人権教育の推進	3.2	○授業や学校行事、集会等において、より多くの児童が活躍できる場を設定し、頑張りをほめることで自信をもたせ、自己肯定感を高めるようにしてきた。 ○毎月のアンケートや教育相談、ハートフル委員会での手立ての構築などを通して、いじめ等の早期発見及び早期解決を図ることができた。	3.5	3.4	○少人数の特性を生かした取組が授業だけでなく、児童の活躍の機会を増やすという発想がよい。 ○いじめ等の早期発見及び早期解決は重要なことで、それらに対する手立てが講じられていることは評価できる。一方で、SNSなどを使ったいじめなども新聞等で目にすることが多い。そのため、SNS等の適切な使い方の指導も大切にしたい。
4	特別支援教育を推進する。 ・校内組織の充実及び関係機関との連携 ・個別の教育支援計画、指導計画の共有及びその活用 ・通級指導教室(川南小)との連携	3.2	○校内特別支援委員会及び日常の情報交換等を通して、全職員で情報を共有するとともに、支援の方向性を協議し、対応することができた。 ○川南小の通級指導教室との連携や児湯るびなす支援学校コーディネーターの指導助言を受けながら、組織的支援の充実を図ってきた。	3.2		○校内での支援体制の充実がよく図られている。また、外部機関との連携等、支援が必要な児童への手厚い教育がなされていると感じる。 ○特別支援教育には高い専門性が求められる。そのための研修も充実しているようだが、より一層一人一人の児童の困り感に寄り添うことができるよう指導力の向上に努めていただきたい。
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ・「みどりの少年団」の活動の充実 ・「Team Kawaminami学びのネットワークづくり事業(地域学校協働本部事業)」の活用	3.1	○みどりの少年団では、校内緑化活動推進に加え、「緑の募金活動で意欲的に活動する姿が見られた。 ○地域の方々の協力により、様々な体験活動等への取組を通して、地域人材とのかかわりを深めるとともに、地域社会に参画する態度や、郷土を愛する心を育成することができた。	3.2	3.5	○朝のボランティアや清掃で、いつも校庭がきれいに清掃されている。また、花壇には「みどりの少年団活動」で児童が育てた花がいつもきれいに咲いていることに感心させられる。 ○トロントン夜市まつりの際に、山本小みどりの少年団員が意欲的に「緑の募金」活動を行っている姿が素晴らしい。 ○地域人材の活用のみならず、児童が地域に貢献する態度や心の育成もぜひ大切にしてほしい。
6	キャリア教育を推進する。 ・幼保小中の連携、及びキャリアパスポートの活用の推進 ・学年の発達段階を考慮したキャリア教育の見直しと計画的な実施	2.6	○キャリアパスポートを活用し、学習や学校生活の目標を設定し、達成度を自己評価することにより、自己の成長や課題を把握させることができた。 ○発達段階に応じたキャリア教育の系統的な指導については、より一層の指導の工夫が必要である。	3.0		○キャリア教育の充実のためにキャリアパスポートの活用や地域人材の活用などがなされている点が評価できる。一方で、学びの目的に応じた人材の発掘などがより積極的になされるとよい。学校運営協議会でも、話題にしていたければ、大いに協力したい。
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。 ・ICTを活用した授業づくりの推進 ・ALT活用による国際理解教育の推進	3.4	○ICTを活用した授業を積極的に取り入れることで、思考の視覚化や情報の共有化が促進され、児童の主体的な学びを促すことができた。 ○ICTをどのタイミングでどのように取り入れるより効果的か、さらに研修を深めていく必要がある。 ○ALTの活用により、ネイティブな発音及び海外の文化に触れることで、児童の国際感覚が磨かれた。	3.5	3.5	○授業を参観すると、各教室でICTを活用した授業が見られる。また、児童のスキルも高まっていると感じる。 ○ALTによる生の英語の発音がほとんどの授業で受けられることが素晴らしい。本町でも、海外の方が頻繁に見られるようになっており、これから国際化社会を生きる上で外国語は欠かせない。英語でも、「わかる・できる」英語の授業をしていただきたい。
III 教育を支える体制や環境の整備・充実						
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ・「チーム山本小」としての組織的取組の推進 ・新しい研修制度を生かした教職員の資質向上の推進 ・業務の精選及びコンプライアンスの徹底	3.4	○計画(Plan)-実施(Do)-評価(Check)-改善(Action)サイクルにより、学校組織を円滑に運営し、経営ビジョンの具現化を目指した組織的な取組を推進してきた。 ○校内研修の取組を充実させることで、読解力育成に向けた授業改善や少人数の特性を生かした授業の推進を図ることができた。また、校務支援システムの活用により、業務の効率性を高めることができた。	3.3	3.5	○計画だけでなく、それを実践し、評価しながら改善を図っていく取組は大切である。そのような取組を通して、学校教育のさらなる充実を図ってほしい。 ○校務支援システムがどのようなものか見せていただく機会があるとありがたい。 ○働き方改革やコンプライアンスの徹底はどの業種でも求められている。特に、学校では模範となるような取組を期待したい。
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。 ・「自分の命は自分で守る」 安全教育・防災教育の充実 ・安全点検の効果的な実施 ・基本的な感染症対策の継続	3.5	○安全・防災教育に関する行事を確実に実施することができた。特に、児童と教師が一緒に実行する安全点検は、危険察知能力育成の観点から有効だった。 ○新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ予防のため手洗い・うがいの徹底、家庭との連携により、感染を最小限にとどめる取組を継続してきた。	3.7		○学校・家庭・地域が一体となって児童の安全意識の高揚を図る取組として「子どもの命を守るために山本小ならではの安全マップ」の作成や活用は大変素晴らしい。 ○新型コロナウイルス感染症の大きな流行がなかったことはよかった。今後も対策を講じながら、家庭と連携した取組をお願いしたい。
IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進						
1	学校体育の推進に努める。 ・学校体育の充実による体力向上 ・地域スポーツ団体との連携や国民文化祭への作品応募や参加の推進	3.2	○運動会や持久走記録会に向けた練習などを通して、児童の体力を高める取組を行ることができた。 ○体力テストでは全国平均を超える種目も多かったが、平均値を下回るものについては、次年度以降、強化を図っていく必要がある。	3.2	3.2	○運動会や持久走大会における児童の全力を出し切る姿が印象的だった。今後もこのような取組を継続し、体力向上を目指していただきたい。 ○新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、大いに児童の外遊びを推奨していただきたい。